

# 産科婦人科疾患

科目責任者 三 橋 暁  
学年・学期 6 学年

## I. 前 文

3 学年時の系統講義で履修した発生・解剖学、生殖内分泌学、周産期医学、婦人科腫瘍学、更年期医学、感染症その他について集中的に効率よく復習する。

## II. 学修の到達目標

すでに履修した系統講義の内容、臨床実習での経験を踏まえ、病態、成因を理解し、診断のための検査法、治療法、予後を総括的に理解する。

## III. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習としては系統講義の復習 (30 分)。事後学習としては講義内容に沿った国家試験の臨床問題 (30 分) で、知識を確実なものとする。

## IV. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1 : 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))

2 : ディスカッション, デイバート 3 : グループワーク 4 : 実習, フィールドワーク 5 : プレゼンテーション  
6 : その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	7	22	金	1	性機能系の生理, 婦人科内分泌異常・不妊症	産科婦人科 宮本敏伸
2		22	金	2	思春期・更年期 (症状・診断・治療) 性器の炎症	産科婦人科 尾林聡
3		22	金	3	性器の良性病変, 悪性腫瘍 (子宮, 卵巣・卵管, 外陰・膣, 絨毛癌)	産科婦人科 三橋暁
4		22	金	4	分娩・産褥の生理・病理	産科婦人科 多田和美
5		22	金	5	妊娠の生理・病理	産科婦人科学 多田和美
6		25	月	1	胎児の生理・病理, 新生児	産科婦人科学 多田和美

## V. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

一次卒業試験で評価する。

## VI. 医師国家試験出題基準 (平成30年版) における区分

必修 5, 7K

総論 III-7-D

IV-1, 2, 3, 4

VI-7-G, H

VII-5-A, B, C

VIII-5

各論 I-1, 2, 3

VIII-7, 8, 9

六  
学  
年

Ⅶ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP    ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

Ⅷ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・試験に対する質問がある場合は都度担当者が対応するので秘書にアポを取ること。